

第3回 諏訪広域公立大学事務組合公立大学法人評価委員会 会議録（概要）

日時：平成30年1月22日（月）
午後1時25分～午後3時25分
場所：諏訪東京理科大学6号館 第1会議室

【出席者】

委員：三浦義正委員長、大石修治委員、百瀬真希委員、両角美智代委員、酒井裕子委員
大学：唐澤理事長予定者、河村学長予定者、小越学長補佐、入江事務部長、牛山次長
長野県：神林諏訪地域振興局企画振興課主査
諏訪広域公立大学事務組合：柳平組合長、樋口副組合長、柿澤事務局長、加賀美事務局次長、
内山係長、牛山係長、金井主事

〔欠席者〕野村稔委員

【公開・非公開の別】

公開

【会議内容】

1 開会

2 あいさつ

3 確認・報告事項

(1) 第2回諏訪広域公立大学事務組合公立大学法人評価委員会の会議結果について

＜事務局（諏訪広域公立大学事務組合）から報告「資料1」＞

(2) 第2回諏訪広域公立大学事務組合議会定例会での議決結果について

＜事務局（諏訪広域公立大学事務組合）から報告「資料2」＞

(3) 公立大学法人公立諏訪東京理科大学の設立認可について

＜事務局（諏訪広域公立大学事務組合）から報告「資料3」＞

質疑応答 確認・報告事項について

質疑なし。

4 協議事項

(1) 公立大学法人公立諏訪東京理科大学の中期計画（素案）について

＜理事長予定者、学長予定者、事務局（諏訪広域公立大学事務組合）から説明「資料4」＞

質疑応答 公立大学法人公立諏訪東京理科大学の中期計画（素案）について

（三浦委員長）

この中期計画（素案）について、意見や感想をお願いしたい。

（意見）一つ目の意見として、先日の新聞に在学生アンケートについての記事があったと思うが、その中で「茅野市が好きかどうか」や「今の学内環境がどうか」ということが質問事項として挙げられていた。そのアンケートを見る中で、地元就職することの大前提として、地元が好きかどうかということがあり、それがとても重要であると感じた。

そのアンケートでは、茅野市内がとても暗く感じるということが書いてあったと思うが、学生が地元を好きになるためには、まずは安心して通学できる環境をどう整えるかということがとても重要であると思った。先日、ひとりは歩行、ひとりは自転車という状況で、学生同士が通学途中に衝突するということがあった。その現場となった通学路を歩いてみたが、本当に真っ暗だった。衝突の状況としては、自転車に乗っていた学生は、たまたま前日に自転車のライトが点かなくなっていたが、修理に行けずそのまま自転車に乗っており、歩行者の学生は自分のスマートフォンの明かりで足元を照らしていたということで、二人とも近寄ってくるのが全く分からないままぶつかったということであった。たまたま二人の保護者の方と話をすることがあり、いろいろな話を聞いたが、二人とも県外出身の学生で、1人は東京理科大学への編入を目指して入学し、もう1人は親戚が諏訪東京理科大学に入学しており、その親戚の勧めでこの大学に入学したということだった。二人と

も、こんなに寒くて暗くなる場所だということは全く想定していなかったとしきりに言っていた。例えば、国道 152 号線沿いに学生向けのマンションが結構建っているが、その辺りは外灯が少なくとても暗いと思う。大学まで安心して安全に通えるというイメージ作りも非常に大事であると思う。

中期計画（素案）の中に、学生がこの大学をどのくらい好きになっているのかということや、地元への愛着心がどう上がってきているかというような数値指標を入れていただくと、その指標に対してどのような手を打っていけば、地元に残ろうという意識が巻き起こってくるのかという目安になると思う。

二つ目の意見として、授業の満足度のために学生にアンケートを取ることが書かれているが、社会人学生として大学に通っていたときに、大学院でありながら宿題をやっけない学生が何人もおり、輪講ができないということがあった。学生の質の問題ということが多大にあると思うが、それに対し先生は優しく諭し、結局先生が授業をするということになった。その先生に、どう思っているか聞いてみたとき、今は学生アンケートがあり、学生がどのように授業を評価するかということが非常に重要だということ言っていた。

学生に先生を評価させるという方法について、学生が社会に出たときに満足度のようなことを社会が聞いてくれるということはある得ないと思う。やはり授業の中で自分自身がどのように成りえていくか、ということを経験してこそ、社会に出て使える人材になると思う。中期計画の実行を通して、学生が地元の企業に就職する、あるいは地元の企業で使いものになるという前提で、人材育成していただけると大変ありがたいと思う。

三つ目の意見として、私自身アイスキャンドルというイベントにずっと参加させていただいているが、2002 年頃から開催されており、途中から諏訪東京理科大学の学生が参加するようになったが、ものすごく盛り上がり方が変わったと思う。若い学生が地元のイベントに参加するということは、地元の方も非常に嬉しいし、それによって盛り上がり方が変わっていくと思う。この地域の良さを活かして、学業と地域愛が両立できることがこの中期計画の具体性に結びついているととても良いと思う。

(回答) まず、学生の事故については本当に申し訳なく思う。私もその話は聞いており、そこまで大きなことにならなかったことは良かったと思っている。学校周辺には暗いところがたくさんあり、大学から市の方へもお願いをし、できるだけ安全は確保していきたいと思う。また、中期計画には書いてないが、通学バスを用意していきたいと考えている。現在は、通学バスは茅野駅と大学間しか運行していないため、それをもう少し色々な場所を回れるようにして、より広い範囲から学生が通学バスで通えるようにしたいと考えている。

次に、授業アンケートについて、アンケートで学生の満足度が高いというのは良いことではあるが、それだから良い授業だということは 1 対 1 には考えていない。しかし、学生の評価が良いということは、よく準備をしているといったことや分かりやすいといったことを含めての評価であると思う。

また、アイスキャンドルを含めて、そういった地域のイベントに参加させることによって、この地域の良さを学生たちに認識させるということは重要であると思う。地域の方々とも交流させていただき大変ありがたいと思っている。こういったことは今後とも進めていきたいと思う。

(意見) 中期計画を読ませていただいたが、私立大学からの継続の部分と、公立化により新しく取り組んでいく部分とが、うまくミックスされており、とても良くできていると思う。

細かい点では、研究に関していくつかの分野があったと思うが、学部共通教育や体育や英語の教員の方も常勤である限りは一緒に研究をやっていくことが良いと思う。

大学院の収容定員について、とても少ないと思った。修士課程は 1 学年 15 人ということであり、博士後期課程は 3 人ということであると思うが、これはやはり少ないと思う。教員の資質のことも書かれているが、工学系の大学として研究レベルを保っていくためには、やはり教育と同時に研究もしていかなければならないので、大学院生数の増加というのは非常に重要となってくる。この部分については、できたらもう少し増やしていく方向で検討いただきたいと思う。

数値指標について、様々な指標をたてているが少し低いかなと思う。逆に良いと思ったのは、入学者の県内比率 30%、県内企業への就職率 50% という目標であり、20% の学生をこの地域に引き止めるという意欲であると思う。こういう目標は非常に説得力があり素晴らしいと思った。

科学研究費の採択・実施件数について、新規採択だけで年に 10 件ということであるならば、とても素晴らしい目標であると思う。

(回答) 現状では新規と継続をあわせて十数件であり、これについては増やしていきたいと考えている。

(意見) 現状より低い目標では意味が無いので、少し高い目標を設定していただきたいと思う。

また、文部科学省の科学研究費補助金だけでなく、厚生労働省や農林水産省などの科学研究費も幅広く見ていただきたいと思う。科学研究費ではなくても公的な資金援助はたくさんあるので、是非しっかりとっていただきたいと思う。

学生アンケートについて、教員の中にはこの学生たちには評価されたくないと思っていることもあるかもしれないが、学生もしっかりと教員を見ている。100パーセントそれを受け入れるということは無くてもよいと思うが、やはりある程度は実施すべきかと思う。優しい教員の結果が必ずしも良いというわけではないし、きれいなパワーポイントで授業をする教員が良いというわけでもない。板書でしっかりと授業を行う先生が良いと評価する学生もたくさんいる。やはりいい面も悪い面も出てくると思うので、アンケートは実施した方が良かった。

また、地方の公立大学ということもあるので、学業と地域愛の両立ということは非常に大切であると思う。

(回答) 大学院生については、修士課程の一学年当たりの定員が15名、博士後期課程の定員が2名としている。大学の修士課程の人数は非常に少ないと思っており、この中期計画期間の終了時には卒業生の25%、例えば300人の卒業生の20%であれば60名となるが、こういった水準を目指している。こういったことは研究の力に繋がると思う。博士後期課程の方はなかなか難しく、実際に博士後期課程に入る方はそこまで多くない。現状では、博士後期課程には地域からの社会人の方が多い。そういったこともあり、博士後期課程に人数を増やすということは難しいかと考えている。

科学研究費について、これも少ないと思っているので増やしていきたいと思っている。

Q. 普通の企業では、中期目標や中期計画をたてたら、初年度はこの部分に取り組み、最終的に6年後こういう形にする、というように計画を落とし込んでいくが、初年度の重点的な事項はあるか。全てが大事なことであると思うが、そういったものがあるかということを知りたい。

A. 通常の企業であれば、ここまで多い項目設定は無いと思う。この中期計画では70~80項目が評価の全体となってくると思うが、通常の企業であれば重点項目が3~5項目ぐらいであると思う。

この中期計画の重点は、人材育成の部分、教員の資質向上等の部分、地域貢献の部分、組織の部分、大きいところではこの4つになると思う。通常の企業であれば、この4つの重点項目でクリアされると思うが、この大学ではスタートして1年目ということもあるので、基本的にはこの80項目をひとつひとつ全部しっかり見ていくということになると思う。

数値指標については当然追うことはできるが、それ以外の半分ぐらいは定性指標であり、これ自体は6年間の中期目標の目論見となるが、これを年次の目論見として一年間実際に運営してみて、その後、その進捗状況の達成具合で、2年目以降どのような重点・ウェイトを置いていくか、ということになると思う。まずは、ひとつひとつしっかりとそのデコボコを見ながら、全体としてバランスが取れるような法人運営をしていきたいと思っている。

Q. 初年度から、中期計画全体を評価していくということになるのか。

A. 要点でまとめたように、大きなポイントは人材育成がどうだったかということ、教育の水準や学生・教員がどうだったかということ、地域貢献がどうだったかということ、法人の組織がどうだったかということであり、実際のPDCAの中で達成できた・できないというポイントを報告しようと考えており、それに対して評価をいただければと思っている。

(意見) 公立化に伴い、地元貢献等について深く書いていただいているが大変ありがたいと思う。学生が地元に残ってもらえるよう地元の企業の紹介や、インターンシップ・海外インターンシップなど幅広く書いてあると思った。

長野県でも次期総合5か年計画の地域計画において、ものづくりの地である諏訪地域に公立諏訪東京理科大学があり、大学と連携した人材の確保と育成というのを掲げている。

中期計画の15ページの産学官金連携による交流活動やネットワークの強化というところで、具体的に様々な団体が書かれているが、是非、長野県も公立諏訪東京理科大学と連携をしていければ、地元の方々の役に立つのではないかと考えている。例えば、岡谷の工業技術総合センターの精密部門等、研究や地元へのニーズに対応する取組を一緒に行っていければと思う。また、人材育成という意味では、社会人等への各種セミナーの開催とあるが、岡谷技術専門校等もあるので、そういった長野県の機関との連携もお願いできればありがたいと思う。

また、地域産業・文化の振興に関する目標を達成するためにとるための措置ということで、16ペー

ジに地域課題解決への貢献で上川アダプトプログラム等とあるが、長野県でも諏訪湖創生ビジョンの計画を策定しており、色々なところで若い方に参加していただきたいとの意見もあるので、諏訪地域に関する取組に学生にも参加していただければ、地元への愛着ということにもつながると思う。

また、茅野駅前のコワーキングスペースへも学生がたくさん出入りするようになれば、地元の企業の方と交わる機会も増えるのではないかなと思うので、そういったところも期待したいと思う。

Q. 図書館の利用数という目標があったかと思うが、現状として図書館のスペースが十分あるのか。信州大学では、スペースを広げて環境を良くして色々な目的のため使えるようにしたら利用率があがったという実績がある。

A. 図書館には閲覧室はあるが、そこでは静かにするようになっている。そのため、学生は外で勉強したり、あるいは集まって学習する部屋があるのでそういったところを利用している。今ある閲覧室を仕切り、学生たちが使いやすい形にしていっての方が、利用率は上がるかもしれない。

(意見) 様々な目標設定がされているが、働き方改革という視点で、教員の方々がオーバーワークにならないようになっているか。教員の数と仕事の量がどうつながるのか。教育研究について、常勤のスタッフのみを活用するのか、あるいは地域の会社の方に手伝ってもらえるのか、そういった計画も必要だと思う。学生やドクターが少ない中、教員が1人で仕事をできるわけではなく、その上研究力を上げるという要求だけが出てくるとすれば、どう解決していくかということを考えていかなければならないと思う。研究のパワーアップを具体的にはどうしていけば良いかということも検討すべきであると思う。

(意見) 大学の周りに何も無いので、学内をどう利用するかということもとても重要になってくると思う。特に食堂については現状のままでよいのかと思う。食堂のあるスペースが暗く感じる。学生が授業の合間の時間で学内でおしゃべりをしたりすることはとても大事であると思うが、どこでそれができるかと言われれば、なかなか学内では無いように思う。学生向けのカフェテリアスペースのようなものがあつたりすると、学生が学内にいる時間が長くなるのではないかなと思う。4年間で、地域愛や学校愛をどのようにしていくかというのは、是非、計画の中でももう少し具体的な案として盛り込んで行った方が、評価も含めてわかりやすいと思う。

先程も委員の意見にあつたように、一年目の重点項目は何かということが分からないので、総論としては良いが、一年目は重点をどこに置いているのかということを含め、学生が理科大の中で成長していく姿がもう少し見える計画になっているとありがたいと思う。

(三浦委員長)

この中期計画(素案)については、いただいた意見を踏まえて次回の評価委員会で再度検討させていただきたいと思う。

(2) 公立大学法人公立諏訪東京理科大学の役員報酬等支給基準(案)について

《事務局(諏訪広域公立大学事務組合)から説明「資料5」》

質疑応答 公立大学法人公立諏訪東京理科大学の役員報酬等支給基準(案)について

(三浦委員長)

役員報酬等基準について、ご意見をお願いしたい。

(意見) 法人としての予算運営ができるのであれば、いくら払ってもいいことだと思う。法人のトップという立ち位置として、この金額が高いか安いかわからないのは、何を持って適正であるかというのは非常に言い難い。例えば、地元の中小企業の社長の方々は、恐らく一部上場企業の部長よりも金額が低いと思う。そういうことから見ると、この金額は十分な金額ではあると思う。かといって、学生を育てていくということで、自分の仕事というよりは人を育てるということであり、担う任の重さを感じる。そういう面では十分な金額を支払って然るべきだと思う。学校運営上支障を来さずということではなければ、特に意見を言うところではない。

(意見) 大学の運営が赤字になった時に報酬をどのようにするかということもあると思う。

(意見) 決めていただいた金額に関しては、これでスタートをしていくということで良いと思うが、手当という考え方、例えば期末手当、賞与という考え方について、私は違う考え方を持っている。考え方としては、利益が出たら賞与を払うもの、目的が達成されたら賞与を払うものというものであり、6月と12月に支払うということよりは、2か月で割って年額でいくらかとした方が、個人的には理解しやすい。

また、評価する中で、あまりに目標を達成しないようであれば下げるという考え方もあると思う。例えば、株式会社であれば毎年の株主総会で、取締役の報酬の総額、限度額を決め、その限度額の範囲内で各人の金額を決めるというようになる。

こういった報酬については、見直す機会が必要であると思う。このままいくのではなく、本当に頑張っている大学になってくれば、もっと報酬を払っていくようになることも良いと思う。そういう大学になるためにも、見直す機会等のルールを整備は必要であると思う。

また、非常勤の報酬について、基本的には良いと思うが、監事という職はその業界ではとても責任の重い仕事であり、この日額3万円というのはとても安いと思っている。名誉職として来ていただけの方でなければ、まず受けないと思う。どのぐらいの稼働率があるのかということと、責任の範囲というのをもう少し明確にさせていただいた方が良いと思う。公認会計士が上場企業の監査に行く時には、一人当たり1時間で5万円程度の請求となると思う。そういった部分も加味しながら、他大学との公平性を考慮し、公認会計士の監査ではなく大学の監事という立場でこの金額でお願いをしていくということになると思う。

(意見) 賞与というイメージではなく、年俸制という方が理解しやすいかもしれないと思う。また、学校の経営が厳しい時、理事長や学長が自ら襟を正すということで給料を下げるということもあると思う。

(意見) 諏訪東京理科大学の理事長と学長の報酬額があまりにも低いということでは良くないと思う。やはり、責任をもって教育にあたる上で、そこそこの金額はあると思う。そういう意味では、他大学との比較ということも本当は正しくないかもしれないが、ある程度は妥当であると思う。

Q. 長野大学の理事長はなぜ金額が安いのか。

A. 長野大学が何故かというのは分かりかねるが、金額が安い大学では、設立団体の部長級退職者が就任したりすることもあり、そういった場合は金額が安いことが多いと感じた。

Q. 世間相場といういい方はおかしいかもしれないが、理事長・学長としてしっかりしたステータスであるということは、やはり諏訪圏にとっても大事なことであると思う。妥当な線だとは思う。

理事長・学長の給料については、名称はどのようにするかは別として、妥当だという話が合ったが、監事についてはどのようにするか。

A. 他大学との比較の中では、多くの大学で今回提示した金額で設定している。

Q. 監事について、どの程度の業務量を想定しているか。何日か掛かるのか、あるいは半日で終わるのか。

A. あまり長い期間やっていないようである。細かい内容まで見ていくということではないようである。

Q. 他の公立大学法人では、公認会計士の監査を受けているのか。あるいは公認会計士の監査を受けて、普通の監事もいるということか。

A. 資本金の額が100億円以上の公立大学法人は、会計監査人の監査を受けなければならないとなっている。また、金額がそれに満たない場合でも、独自に会計監査人の監査を受けている公立大学法人もある。

(意見) 監事の仕事をどう理解しているかということになると思うが、私の理解では、会計監査法人の監査を受けている場合は、監事は理事長や学長や理事がちゃんと仕事をしているかどうかということをチェックする、お目付け役のような役割だという理解でいる。その部分をどう理解して役職を作っているかというところで仕事が変わってくると思う。コンプライアンスを含めて全体をしっかりとマネジメントしているかということをチェックするのが、監事の仕事になると思う。また、国立大学法人の監事はほとんどが他大学の学長経験者であり、そういうことで仕事をしている。

(回答) 監事について、公認会計士という資格の立場でやるのか、監査員という立場でやるのかということだと思う。恐らく想定しているのは後者であろうと思う。

(回答) 法的には、監事は事務又は事業の運営に関して監査をしていただくというような条文記載である。当然、公認会計士の資格での監査ということになれば、細かい内容まで見ていただくということになると思うが、今言ったように通常の監査員としての監査をお願いするようになると考えている。

(意見) 細かい会計監査とは一線を画しているということで、全国的にこのような金額でやっているのではないかと思う。

(意見) 監事が理事会へ出席する回数やどれぐらいの仕事量かということでも変わってくると思う。

(回答) 監事は、理事会に出席し意見を述べるができるので、基本的には出席していただく方には出席していただくということになる。

(意見) もし、コンプライアンスに反するようなことがあった時に、通常であれば監事が一番責任を取ることになると思う。「会計監査」というくくりであれば、公認会計士の資格を持った方が別枠でやればよいと思う。監事が持っている責任の重さをどう考えるか。責任に対して報酬がついてくるものであると思う。何か起きた時には、この監事の方に責任を取っていただくというスタンスなのであれば、手厚く迎えなければならないと思うし、名誉職という扱いであるならば、何か起きたとしてもこの監事はあくまでも名誉職なので表に立つのは理事長と学長だということになり、そういった日額の設定になると思う。位置づけをどうしているかということをもう少し明確にした方が協議しやすいと思う。

(回答) 監事の位置づけについては、もう少しはっきりさせて次回再度協議させていただければと思う。

(三浦委員長)

基本的には理事長・学長の報酬についてはこの線で進めていき、監事の役目についてはどういうイメージでお願いをしていくのか、どういう人にお願いしていくのかということを反映させて、次回に検討するというところでお願いしたいと思う。

(3) その他

5 その他

6 閉会